

備前市施策評価シート

(平成20年度事業)

施策名 (小項目)	文化財の保存と活用	コード	作成者	役職	生涯学習課長
		03-03-02		氏名	末長章彦
				電話	64-1841

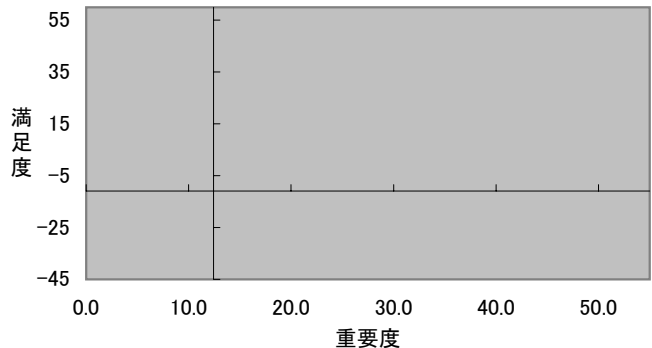
備前市総合計画の内容から記載する

政策の体系	大項目(基本目標)	地域文化と人が輝くまちづくり
	中項目(基本施策)	歴史と文化の輝くまちづくり

① 施策の対象と目的 (誰のために、何のために)	市内外を問わず、備前市の歴史や文化財(特に閑谷学校や備前焼)に興味のある人に対し、公開活用をはかり、もって市民の文化向上に役立つことを目的とする。
② 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	本市にある数多くの文化財を開発・腐朽・災害などから守り、適切に保護・保存していくことが重要な課題である。また、備前歴史フォーラム等を開催するなど、文化財の公開・活用を通して文化財に親しむ機会を設け、理解を深めてもらう必要がある。旧閑谷学校等の世界遺産登録に向けては、岡山県をはじめ関係市町と協議しながら推進していく必要がある。
③ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の保護・保存、公開や活用</li> <li>旧閑谷学校世界遺産登録の推進</li> </ul>

④ 市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H19	H20	H21	H22
重要度(%)				
満足度(%)				



高 ↑ 満足度 ↓ 低	<p>&lt;見直し領域&gt; その施策や事業が必要か否かの検討が必要</p>	<p>&lt;維持領域&gt; 現状の方向を継続</p>	
	平均		
	<p>&lt;検討領域&gt; その施策や事業の存続の検討が必要</p>	<p>&lt;強化領域&gt; 内容等を見直し、市民満足度を高める事業を行う</p>	
	低 ←	重要度	→ 高

調査結果に対するコメント、市民の反応等	文化財の保存と活用に関して市民意識調査による重要度・満足度の指標はない。しかしながら、自由意見では集客できる文化財(878)、文化的側面が向上し商業が活気づく(795)のように、文化財を観光資源と捉え、観光客誘致の財物と考えている市民がいる。
---------------------	---

⑤ 施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	成果指標・計算式・ベンチマークの説明	目標値	
		H18	H19	H20		H21	H22
成果指標 備前歴史フォーラム延参加者数	目標	人	200	100	200	H21	100
	実績	人	184	84	100	H23	100
	達成率	%	92.0	84.0	50.0	H28	200
	ベンチマーク					-	-
参考指標① 旧閑谷学校世界遺産登録推進委員会総会・記念講演・講座参加者数	目標	人	50	50	70	H21	70
	実績	人	51	51	73	H23	80
	達成率	%	102.0	102.0	104.3	H28	100
	ベンチマーク					-	-
参考指標②	目標					H21	
	実績					H23	
	達成率	%				H28	
	ベンチマーク					-	-
参考指標③	目標					H21	
	実績					H23	
	達成率	%				H28	
	ベンチマーク					-	-

⑥ 施策構成事務事業の評価

施策を構成する事務事業	事務事業 評価結果 A~E (高~低)	細事業	事業分類	事業費等(単位:千円,人)									平成21年度 5月補正後 予算額 ※一財ベース			
				平成18年度			平成19年度			平成20年度						
				直接 事業費	人件費	人工数	直接 事業費	人件費	人工数	直接 事業費	人件費	人工数				
1	文化財保護事業	B	文化財保護管理運営事業	補助	1,426	10,029	1.54	11,071	5,887	0.86	1,403	3,949	0.60	☆☆☆☆	その他	9,177
			備前焼総合調査史跡整備事業	補助	13,631						7,805	2,844	0.38	☆☆☆☆☆	計画事業	4,723
2	旧閑谷学校世界遺産登録推進事業	B	閑谷学校世界遺産登録推進委員会事務事業	単市	10	1,705	0.20	10	1,969	0.30	100	3,027	0.38	☆☆	その他	950
					平成18年度			平成19年度			平成20年度					計
					15,067	11,734	1.74	11,081	7,856	1.16	9,308	9,820	1.36			14,850

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
備前歴史フォーラム実行委員会	地域の歴史を学び、未来像を探る市民協働のシンポジウム	備前焼の歴史を読み解き、さまざまな情報を発信の場とする。
商工観光課	備前焼振興事業など観光関連事業	文化財を観光資源とした情報発信等が多く、緊密な連携を図る必要がある。

⑧ 施策の評価

項目	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い			
	一次評価		二次評価	
	評価	判断理由	評価	判断理由
1 役割分担の妥当性 (市の関与、協働の可能性)	3	文化財の保護・保存と共に文化財に対する認識の高揚は市の責務である。備前歴史フォーラム開催には実行委員会を組織し、市民協働のシンポジウムを開催している。	3	文化財を保護・存続し後世に伝えてゆくのには市の関与が欠かせず妥当性がある。
2 事業構成の妥当性 (実施手段)	4	文化財活用の観点からは、歴史資料等のデジタル化が急務となっている。閑谷学校世界遺産登録推進事業については、文化庁から「近世の教育資産」として弘道館・足利学校との共同提案への逆示唆を受けた。	4	同左
3 施策の有効性 (指標分析、評価年度・中長期の達成度)	4	備前焼総合調査史跡整備事業で実施した発掘調査等により国指定史跡の追加拡大へ帰結した。	4	同左
担当への指示 (今後の展開、事業見直し、新規事業創出等)		追加拡大された「国史跡備前陶器窯跡」の調査研究を進めるにあたって、地元住民の理解を得ること。閑谷学校世界遺産登録推進については、岡山県との事務分担を明確にすること。	同左	
二次評価者コメント 役職 教育次長 氏名 竹中 史朗	旧閑谷学校世界遺産登録推進については、岡山県との事務分担を明確にするとともに関連の県・市との連絡を密にして事業内容等摺り合せを必要とし、他市と歩調を合わせた予算の加配が必須である。		基本施策への貢献度	翌年度予算の方向性
			4 やや高い	平均を上回る配分